



国循と市の地域連携

「吹田フレイル予防ネット」覚書を締結

10月29日、国立循環器病研究センターと市は、急性脳卒中発症後、自宅退院になった軽症の患者に対して、退院後の心身機能低下を防ぐための地域連携システム「吹田フレイル予防ネット」の構築に向け覚書を締結しました。国立

循環器病研究センターから情報提供を受け、地域包括支援センターや保健センターが、患者およびその家族と医療・福祉・社会資源を効果的につなげ、健康寿命の延伸に役立てることをめざします。



国立循環器病研究センター大津理事長(右)と後藤市長(左)

健都ライブラリーで開館1周年記念イベントが開催

11月で1周年を迎えた健都ライブラリーで11月12日～14日に、開館1周年記念イベントとして、運動教室や食育講座、野外コンサート、鉄道に関する講演会などさまざまな催しが行われました。キッチンカーの出店やマルシェも開催され、たくさんの方が参加しました。



野外コンサート



運動教室



マルシェ



市長コラム No.76

こもれび通りゾーン

後藤圭二



コラムの音声版はこちら

スポーツでは「ゾーンに入る」という表現が使われます。深く集中し、感覚が研ぎ澄まされ、最高のパフォーマンスを発揮できる状態のことです。

職業柄、文章を書く機会が数多くあります。その際、このゾーンに意識的に入ることができればいいのですが、そうはいきません。

このコラムを書こう！とキーボードに向かっていても全く筆が進まない時があれば、スルスルと短時間に3編書き切ってしまう時もあります。その時はまさにゾーンに入ったと感じます。

ところが、その出来栄はどうか。われながらの「名作」も翌日読むと修正点だらけ。時間を置いて違

う視点で推こうすることの大切さをつくづく感じます。この「こもれび通り」には、身近な職員の厳しい目が通っています。「導入部分がフツウ」「オチが弱いですね」「何か分かりやすい例が欲しいです」と容赦ないコメントが。私のゾーンなんてそんなもんです。

どんな仕事でも仕上げが大切ですが、最後にその出来栄を俯瞰し、評価してくれる人との信頼関係がなければ「いいですねー！今回もステキです！」と当たり障りなく流されてしまいます。遠慮なく耳に痛いことも指摘してくれることがうれしいのです。

でも私、褒められて育つタイプでして(^ ^)

